

美郷村の峠道

民俗班 (徳島民俗学会)

橋 禎男*

1. はじめに

県のほぼ中央部に位置する美郷村は、総面積50.04km²で、全体の83%を山林が占めている山村である。

周囲は、北西から北にかけて山川町、北に川島町、北東に鴨島町、東と南は神山町、南西に木屋平村、西に突き出た部分は穴吹町に接している。これら6町村との境界は、全て山の尾根上にあり、最高地点

は奥野^{おくの}々山 (1164m) である。南部は800mを越える尾根が連なり、吉野川に近い北部も300m以上の尾根に囲まれている。河川は吉野川に連なる川田川とその支流の東山谷川が村内に延びて、20に及ぶ谷を擁し、集落はこれらの谷沿いや傾斜地上に散在する。交通路は、国道193号が村内をほぼ南北に貫き、県道は二宮山川線、神山川島線、三ツ木宮倉線が尾根を越えて外部とつながっている。

今回の調査は、徒歩が主な交通手段であった時代

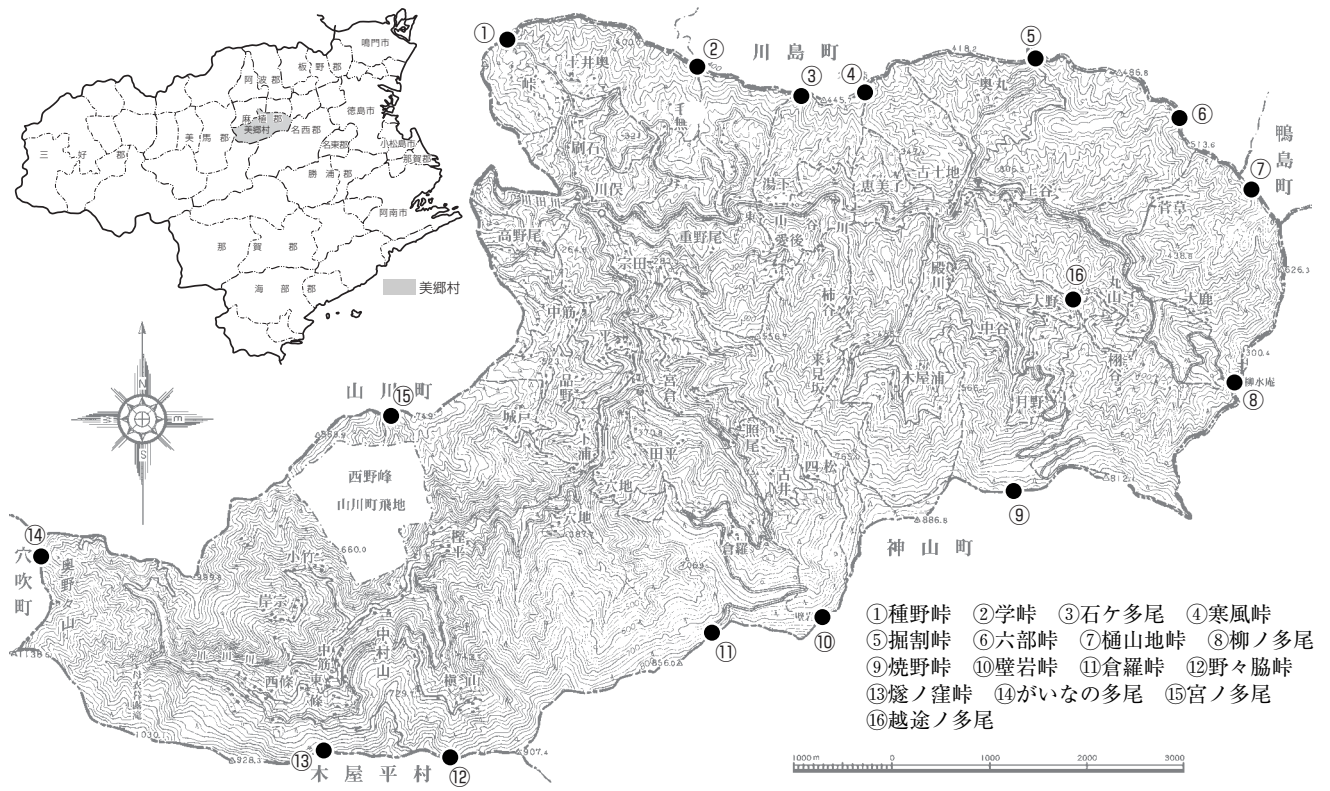


図1 美郷村の峠道

* 徳島市国府町日開42-5

の峠道に焦点を当てて、そのルートと現状、並びに峠道に残る石造物を主とした民俗文化財を明らかにするために行った。現地調査は、平成15年6月20日から平成16年1月15日までの間の11日間である。

2. 美郷村の主な峠 (図1)

1) 種野峠 200m

本村の種野と山川町山瀬を結ぶ峠で、剣山道としても利用された。大正2年に道路が出来るまでは、土井奥から北へ尾根道を上っていたが、この道は現在通行不能である。天神社下の県道二宮山川線沿いに、寛延4年(1751)建立の庚申塔と常夜灯がある。

2) 学峠 400m

本村の湯下と川島町学を結ぶ峠で、山崎の忌部神社へ通じる道でもあった。峠の200mほど手前に掛ノ谷大師堂があったが、昭和58年に800mほど下に移転した。堂内に安永9年(1780)、堂前に昭和8年(1934)銘の大師石像(図2)があり、いまでも地元民の信仰が厚い。



図2 掛ノ谷大師堂前の修行大師像

旧堂跡の峠寄りに、「土御門天皇」と剣紋の下に刻んだ高さ82cmの自然石の碑がある。地元では、「つるぎさん」と呼んでいるが、土御門上皇が土佐から阿波へ移られたとき、この道を通られたという伝承が残っている。峠には、正徳年紀の地藏尊が立っている。

3) 石ヶ多尾 350m

本村の湯下と川島町学を結ぶ峠で、学峠の東南東900mにある。湯下から上る道が林道と交差したすぐ上の尾根道に、明治42年(1909)建立の「地藏大菩薩」と刻まれた石仏がある。峠名は、大師伝説のある大きな石が峠に立っていることによる。

4) 寒風峠 400m

本村の恵美子と川島町峰八、学を結ぶ峠。集落と峠間の距離が短いので、徳島へ出る時によく利用された。石造物はない。

5) 掘割峠 330m

本村の東山から川島へ出るのに利用された峠で、川島峠ともいう。県道川島二宮線が通じているが、道路が出来るまでは細くて険しい山道であった。峠から200mほど川島寄りに、大正9年(1920)東山村の森永三十郎氏によって建てられた不動明王がある。これは同氏が、馬車を引いて峠を越えるとき崖から転落したが、幸いに人馬とも助かったことに感謝して建てたのだという。

6) 六部峠 465m

東山鉦山のあった菅草と川島町桑村を結んでいた。峠には、「回国 下野国足利郡寺岡村泰禅 安永二巳年(1773)四月二四日」と刻まれた墓石(図3)がある。回国行脚の途中、ここで亡くなった「六部さん」と言われる修行僧のものともみられ、峠



図3 六部峠の墓

名はこれにちなむ。

峠は、東山鉾山から鉾石を川島側へ出すのに使われたが、昭和20年の廃鉾にともない、峠道も昭和30年頃廃道になった。峠から川島側へ少し下ったところに、大正14年（1925）建立の地藏菩薩がある。

7) 樋山地峠 540m

本村の大鹿^{おおしか}と鴨島町樋山地を結ぶ峠。美郷村と神山町や鴨島町は互いに縁組も多く、この峠も親戚間の交流によく利用されたという。峠から鴨島側に250mほど下った所に、安永5年（1776）建立の庚申塔がある。

8) 柳ノ多尾 480m

本村の大鹿^{とちだに}、羽谷と神山町阿川を結ぶ峠。尾根を通る遍路道と峠で交差しており、柳水庵^{りゅうすいあん}がある。峠には、お遍路のための「十一番江六十町 十二番江六十丁」の道標や地藏菩薩がある。

9) 焼野峠 725m

本村の月野^{つきの}と神山町釘貫^{くぎぬき}を結ぶ峠。昭和59年峠の250m東に県道が通じたため、峠道は廃道となった。月野は、村内で最も高所にある集落で、景観に優れている。享保6年（1722）の庚申塔や板碑が残っており、峠には焼山寺道を示す青石の道標が立つ。また峠の北側の県道沿いには、「右剣山道 左焼山寺道」と刻まれた角柱の道標（図4）がある。いずれも地元民によって立てられたもので、月野が二つの



図4 月野の道標

道の分岐点であったことがわかる。

10) 壁岩峠 850m

本村の古井^{こい}、四ツ松と神山町長野^{みょうがだいら}、名ヶ平^{なかがへら}を結ぶ峠。峠の北東250mに、剣紋の下に「右剣山是より七里半程 左上山道」、側面に「古井講中世話人瀧次郎」と刻まれた道標（図5）がある。前記の月野からの道と古井からの道が、峠手前で合流している。

また、この峠は、本村から焼山寺へ参拝やお接待に行くときにも利用された。峠の北1.6kmに、「右遍路道四十八丁」と刻まれた文化元年（1804）建立の道標地藏がある。



図5 壁岩峠近くの道標

11) 倉羅峠 760m

本峠は壁岩峠の西1kmに位置する。前記の剣山道は、この峠を経て土俵の窪、東宮山、川井峠へと連なっていた。弘法大師がお経を唱えながら峠を越えたという伝承から、神山側では「経ノ坂峠」という。峠の南側には、文化10年（1813）建立の大師石像が祀られており、峠には剣山道を示す道標が2基ある。

12) 野々脇峠 800m

本村の横山と木屋平村野々脇を結んでいた。昭和30年まで両集落は二戸^{ふたど}、今丸とともに、同じ中枝村^{なかえだ}であった。現在両集落とも無住となり、峠の西側に県道が通じたので、峠は使われなくなった。石造物はない。

13) 燧ノ窪峠 750m

本村の東条と木屋平村三ツ木を結んでいた峠で、古くから両村を結ぶ重要な交通路であった。剣山道としても昭和30年頃までよく利用された。峠には地藏堂があるが、峠道が廃道になったため、2体の地藏菩薩（図6）は現在麓の真福寺で保管している。高さ41cmの丸彫りのものと、正面に地藏菩薩を浮き彫りにして、「火打地藏尊」と刻んだ昭和12年（1937）銘の角柱型のものである。



図6 燧ノ窪峠の地藏菩薩（真福寺保管）

14) がいなが多尾 1,040m

奥野々山の北500mにある峠で、本村の中村山と穴吹町大内を結んでいた。本村の峠の中で最高所にあった。峠名は、方言の「ガイナ」（気が強い）からと考えられるが、なぜこの名が付いたかは不明である。石造物はない。

15) 宮ノ多尾 700m

西野峰と山川町川田を結ぶ峠。西野峰は山川町の飛び地で、現在は無住だがかつてこの集落の子供達は、峠を越えて川田小学校に通ったという。峠名の由来は、奥野々神社の前社があったことによるが、社殿や狛犬は今も残っている。

16) 越途ノ多尾 450m

本村の大野、丸山、中谷、月野の集落のほぼ中央に秋葉神社を祀る小高い山がある。昔は相撲大会もあって賑わったが、本峠はその南側にある。この峠から北東に下る尾根道は、前記集落の子供達の通学路としてよく使われたという。石造物はない。

3. 美郷村の峠の特徴

①本村の峠は前述通り16峠で、越途の多尾以外はすべて周辺町村との境界の尾根上にある。山林が8割以上を占めているにもかかわらず、村内の集落間の峠道が少ないのは、尾根が一定の傾斜を持って連なっているため、鞍部を越える道が作られなかった地形上の理由によるものと考えられる。

②石造物のある峠は12峠で、その内2峠には複数の石造物があった。内訳は道標4、大師像2、地藏尊3、庚申塔2、その他3である。また、お堂や庵のある峠が4峠あり、大師伝説の残る峠が3峠あった。石造物やお堂の多さは、峠に限らず村全体にいえることで、村民の信仰心の厚さを物語る貴重な民俗文化財である。これらは村内を通過する旅人にも、安らぎの場を提供してきたことと考えられる。

③峠の呼称は、トウゲとタオの二つだけで、コエ、ダオ（＝タオ）、ドウなども使われている神山町と対照的であった。

4. おわりに

今回の調査で特に印象に残ったのは、村内を覆う人工林の大きさであった。大部分の峠は、成長したスギやヒノキのため薄暗く、展望は求められなかった。

近年、自然や歴史、文化に触れながら、山里や峠道を歩きたいという人が増えてきた。数多くのお堂や石造物を残し、お接待の心が今も息づいている本村は、「ふるさと」を求める人々の期待に、十分応えられる条件を備えていると思われる。広葉樹を増やしたいという「美郷みずがめ構想」の推進と合わせて、今後を期待したい。

今回の調査に際して、多くのご教示を賜りました、地元美郷村の明石博雄、久保福市、上野速雄、猪井芳明、猪井千代子、猪井鶴義、棚上泰見の各氏に深く感謝いたします。

文献

- 美郷村編（1969）：『美郷村史』美郷村。
- 三木寛人（1971）：『木屋平村史』木屋平村。
- 喜多弘（1994）：『みさとの伝説』美郷村教育委員会。
- 沖田定信（1988）：『阿波のお堂』阿波のお堂の習俗研究会。